



芝山小だより



12月号

清瀬市立芝山小学校

校長 寺井 俊敬

<http://www.kiyose.ed.jp/>

特別支援教室とアナログゲーム

特別支援教室担当

少し古くなりますが、2019年のある新聞の朝刊に「デジタル時代にボードゲームの人気復活」という記事が掲載されました。この記事では、ボードゲームの人気の背景について、人が集まらなければ始まらないというボードゲームの特徴が、SNSの普及にはまったと指摘されています。

最近保護者からの相談に、「ゲームとの付き合い方」というものが増えているように思います。きりりでは、そのような相談への一つの提案として「デジタルゲームの一部をアナログゲーム(カードゲームやかるたやボードゲーム)に変えてみてはどうでしょう。」と伝えています。

アナログゲームの目的は、実社会で必要とされる実践的なコミュニケーション力を自然な形で身に付けてもらうことにあります。アナログゲームの中にはプレイの中に相手とのコミュニケーションが必要なゲームが多数あります。そうしたゲームを使うことで他者視点の獲得と実践的なコミュニケーションを自然な形で繰り返し行うことが可能だと考えます。

特別支援教室きりりでは、教科等の学習ではなく、子供たち一人一人の課題に応じた自立活動を行っています。そのために、アナログゲームを授業の中でも活用しますが、大切にしている点の1つが「小さな社会を形成する」ということです。社会を形成するためには一人一人がルールや約束を理解して守ったり、納得できないことに対して交渉したり、状況によっては折り合いをつけて受け入れていったりすることが求められます。最近の子供たちが熱中しているテレビゲームやオンラインゲームにもルールや約束はありますが、相手にどう思われるかを考えることなく、自分の都合を優先させてしまうといった傾向が強く、「自分でルールを守ろう」という意識が薄くなりがちです。

アナログゲームの場合にも、ルールや約束を破ろうと思えばいつでも破れますが、絶えずそこには相手がいるため、参加者一人一人の「ルールを守ろう」という意識が育まれやすくなっているわけです。

小さな社会を形成するための基盤がアナログゲームの中にはすでに自然な形で含まれているわけです。小さな社会(小集団グループ)での経験が、学級の中や実際の社会に出た際にも「ルールを守る」「折り合いをつける」「説明する」「協力する」「交渉する」などといった生きる力へとつながっているのではないかと考えています。

学校とは、本来子供たちが大人になったときに、自立して暮らしていく力を身に付ける場所であると考えます。そして、それは、特別支援教室であっても同じです。特別支援教室の役割として大切なのは、実社会で必要とされる実践的なコミュニケーション力を身に付けさせることにあります。こういった能力は、机上のプリント学習だけでは身に付けることはできないと感じています。

もちろん、実践的なコミュニケーション力を育成することが可能なのはアナログゲームだけではありません。一人一人の子供たちに適した自立活動はいかにあるべきか日々悩み、指導に取り組んでいます。今後も自立活動とは何なのかを深く考え、アンテナを張り、子どもたちの生活に生きた指導に努めていきます。

特別支援教室きりり相談会

12月5日(火)～12月7日(木)の午後、きりりの教室できりり相談を行っています。個人面談期間中「きりり」で使用する教材をご覧になったり、きりり担任と相談したりできるようにしたいと思います。気軽にいらしていただければと思います。